

24	みよし	みよし市立緑丘小学校	おのだ みさ
			小野田 みさ
分科会番号	8	分科会名	音楽教育

## 聴いたこと、感じたことを表現する楽しさが実感できる鑑賞をめざして

～小2音楽科「ようすを おもいうかべよう」の実践を通して～

### 1 主題設定の理由

ペアやグループでの活動も憚られたコロナ禍の学校生活から、少しずつ制約のない日常が当たり前になってきた。子どもたちがマスクを外し、元気よく歌い、生き生きと歌唱や演奏する子どもたちの姿を見て、音楽科の授業を充実させたいと実践計画を検討した。しかし、歌唱や演奏には積極的に取り組めても、鑑賞への取組の姿勢には不安を感じた。そのため、鑑賞の単元で「曲を体で表現し、紹介する」というめあてを立て、手だてを細かく準備した。フレーズごとの挿絵の提示、リズムのまとまりカードを使用したリズムづくり、グループごとに分かれた体を動かす活動、順番をずらしたり重ねたりした歌唱や演奏などに取り組むことで、反復に気付きやすくし、その面白さやよさを感じられるようにしようと考えた。実際授業に取り組むと、子どもたちなりに根拠をもって曲の面白さを言葉や体を使って表していた。歌唱や演奏とは異なる生き生きさ、「音を楽しむ」姿を見ることができた。そうであるなら、鑑賞の授業を積み上げていくことで、音色や旋律、強弱、反復など、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さに気付けるようになるのではないかと考えた。そこで、研究主題を「聴くこと、感じたことを表現する楽しさが実感できる鑑賞をめざして」とし、「ようすを おもいうかべよう」の単元で実践することにした。本校では「学び合い、学びを深める授業づくり」を研究主題として、ペア・グループ学習を活用した、主体的で協働的な学びを目標として授業づくりに取り組んでいる。低学年では、ペアでの活動を積極的に取り入れ、ペアの子と、学級全体で曲のよさや楽しさに気付けるようにしたい。

### 2 研究の構想

#### (1) めざす児童像

音色や旋律、強弱、反復など、音楽を形づくっている要素を聴き取り、ペア活動や学級全体でいろいろな感じ方や考え方に接する中で、曲のよさや面白さを「どの部分から、どのように感じるか」という視点で、言葉や体を使って表現することのできる児童

#### (2) 研究の仮説と手だて

**【仮説1】** 題材を貫く課題を設定して授業を積み上げていくと、視点をもって曲を聴き取り、音楽を形づくっている要素を根拠として、曲のよさや面白さを言葉や体を使って表現することができるだろう。

手だて① 題材を貫く課題を「様子を思い浮かべられる曲には、どんな秘密が隠れているのかな」とすることで、全ての授業で主体的に曲のよさや面白さとなる秘密を探ることができる。

手だて② 手だて①で見つけた秘密を学びの足跡に残していくことで、前時までの学びを生かして曲を聴き取ることができる。

**【仮説2】** ペアでの活動をより多く設定することで、秘密を見つける視点がより多くなり、活動が意欲的になるだろう。

手だて③ ペアでの聴き合いを積極的に取り入れる。また、学びを深めるために、子どもたちの

意見の中からキーワードとなるものを見つけて意図的に問い返すとともに、体を使った表現の場を設定する。

### (3) 題材計画 (7時間完了)

【題材を貫く課題】 様子を思い浮かべられる曲には、どんな秘密が隠れているのかな。	
つかむ	① 歌詞を思い浮かべながら歌おう 「あのね、のねずみは」
ふかめる	② 歌詞と曲の感じを比べて歌おう 「夕やけこやけ」 ③ 様子を思い浮かべながら聴こう 「たまごのからをつけたひなどりのバレエ」
つなげる	④⑤ 様子を思い浮かべながら歌おう } 「小ぎつね」 ⑥⑦ 様子を思い浮かべながら演奏しよう }

### (4) 仮説の検証方法

本研究は児童Aを抽出児として、その変容を授業記録、ワークシートなどを基に追っていく中で、仮説の検証と手だての有効性について明らかにしていく。

#### 児童A

どの教科の学習にも意欲的で、探究心をもって授業に取り組んでいる。ただ、思いを伝えることに苦手意識をもっており、音楽科の授業では本人の気付き、思いを表出すること、級友と学び合う楽しさを実感し、自信をもって学びに向かうことができるようにしたい。

### 3 授業実践

#### (1) 歌詞に動物の様子が隠されていることを見つけた児童A

##### ○ 第1時「あのね、のねずみは」

導入として、題材を貫く課題「様子を思い浮かべられる曲には、どんな秘密が隠れているのかな」を子どもたちに提示し、第1時として『あのね、のねずみは』 様子が伝わる秘密を見つけよう！とめあてを定め、授業に取り組んだ。

本時は、主に歌詞から言葉の意味を感じ取っていた。児童Aの「はたらきもの だから、いそがしそう」という意見は、他の児童からも同様の意見が出ていたため、「“いそがしそう”な感じが伝わるようにするには、どのように歌ったらよいか」と学級全体に問い返し、ペアで考えるよう促した。どのペアも苦戦していたため、一斉授業にして意見を拾うと、

「ちょっと速く歌う」「あつ のっ ねっ と短く切る」「『ぶーん』の手をバタバタする」

といった意見が発表され、児童Aは「確かに！」と声を上げ、真似して短く歌っていた。また、体を使った表現の場を設定したところ、みつばちが羽を素早く動かしせわしなく飛ぶ様子を、手をバタバタさせたり、くるくる回りながら歌ったりしていた。

##### ○ 第2時「夕やけこやけ」

めあてを『夕やけこやけ』 様子が伝わる秘密を見つけよう」として、授業を進めた。

楽しく、弾むような曲調だった第1時『あのね、のねずみは』に対して、第2時『夕やけこやけ』はしっとりと落ち着いた雰囲気曲である。第1時の活動を踏まえ、歌詞に着目する児童が多いと予想し、『あのね、のねずみは』と比べてどうかな？と全体に問いかけ、ペアで考えることにした。ペアで聴き合った内容を全体で共有したところ、

「暗い感じ」「ゆっくり」「速いときは明るかったけれど、ゆっくりだと暗くなる」

といった意見が発表された。一人の児童が『からすといっしょに かえりましょーう』の『かえりましょーう』のところ、ゴーンっていう鐘の音みたい」と発言し、児童Aを含め学級全員で「そ

うだ、そうだ」と共感した。その後、児童Aは鐘の音のような裏声で、声を震わせて歌っていた。

第3時は歌詞のない曲を鑑賞することになる。そこで【前時までの発言や気付き、体の動かし方、鑑賞への姿勢】で特徴的な部分を座席表にまとめることにした。右の言葉は、児童Aの様子をまとめたものである。ペアとの聴き合いではまだつかみきれていなかったが、一斉授業で出会う級友の考えに共感し、鑑賞によってもった自身の考えを膨らませていくことができた。

**児童A**

- ・「あのね」を短く切って歌うと楽しそうになるね。
- ・聴き取った音を感じ、言葉で表すことができる。

(2) 音に合わせて体の動きを変化させていった児童A

○ 第3時『たまごのからをつけたひなどりのバレエ』

ア 実践「何の動物の曲かな」

初めは「ひよこかな」と予想していた児童Aは、「ひな鳥、バレエ」というキーワードが紹介されると、近くの子と話しながら2回目の鑑賞をした。直後のペアでの聴き合いで、「慌ててバレエしている!」とすぐ自身の考えを伝えた。自身の考えに対する思いの強さは、その後の一斉での共有でさらに表れた。「最初は、ペアの子の考えを聴こうかな」という発問に、児童Aのペアが発言しなかったことを受け、「じゃあ、自分はこう思ったでもいいよ」と声をかけられると、すぐに挙手し、「慌ててバレエをやっている!」と発言した。自身が見つけた曲の秘密に自信をもち、学級に発表したいという強い思いを感じる事ができた。

イ 実践「聴こえる音からひな鳥の様子を想像しよう」

聴いた音を根拠として、曲の感じを言葉で表現させたいと考え、3回目の鑑賞の機会を設定した。「高い」「低い」など、音の特徴をまとめたキーワードを掲示していたが、はじめは言葉での表現は難しかった。手をばたばたさせてひな鳥の様子を表現しようとした児童がいたので、体の動きを使って曲の様子を感じ取らせたり、表現したりする流れに移行した。用意していたひな鳥の衣装、卵の殻の帽子を取り出し、体での表現を促した【写真1】。その際の、児童Aの反応をまとめたものが以下の授業記録である【資料1】。



【写真1 ひな鳥の衣装を着けた子どもたち】

A:【はじめ】両手をひな鳥の羽のようにばたばたさせながら、びよんびよん飛び跳ねる。  
【はじめ・なかの間】長いフルートの音で、動きが止まる。  
【なか】【はじめ】と同じ動き  
【おわり】両手をひな鳥の羽根のようにパタパタさせながら、びよんびよん飛び跳ねる。  
出ている3人でくるくる回りながら。

T: AさんやDさんが、動きを変えたところがあったよね?  
B: ピーって鳴っているところ。転びそうに、けんけんしていた。  
T: ピーっていう音のところ、Aさんは何していた?  
B: 止まっていた。(複数の声)  
G: 転んでいた。  
D: 車が来たと思って、危険。  
(つぶやき A: ピーっとなったら、危険とを感じる。)  
T: それで止まったのね。  
(つぶやき B: バレエだから、けんけんした。つま先立ちをした。)

【資料1 授業記録より抜粋】

児童Aが、音に合わせて体の動きを変化させており、音によって曲の感じや想像されることに変

化が出ることに気付いていることが分かる。

### ウ 実践「基となる絵からイメージを膨らませて」

この曲は、作曲家ムソルグスキーの友人で画家である鳩ルマンの遺作展覧会の印象を基にしたピアノ曲である。フランスの作曲家ラベルによる管弦楽用編曲も有名で、教科書では後者の鑑賞を前提としている。ひな鳥が跳ね回るような主要部分と、何か夢見るような中間部分との対比が特徴である。これらの絵を子どもたちに提示し、他の子どもたちも曲を体で表すことを続けた。

【資料2】は、その場面の授業記録である。

T：みんなずっと歩いているけど、ずっと歩くだけ？

B：いや、走っている。

T：走っているだけ？

H：回ったり。

F：跳びながら、手をこーやって（パタパタさせる）。

T：実はこの曲、【はじめ、なか、おわり】で分かれています。どこで分かれているか、それに注目して聴いてください。

〔5回目の鑑賞〕

T：分かったかな？

〔はじめ、なか、おわり を確かめつつ、「分かった？」と確認していると、Aは「分かった！」と大きく反応〕

T：【なか】はどんなイメージだった？

B：獲物を見つけて、こっそり狙っていく感じだった。

（A：拳手したがBが発言するも、Bの意見に大きく何度もうなずく）

I：ゆっくりめで歩いているみたいな感じ。

T：どうしてそう思ったの？

B：何か、音が低いから。

T：IさんやBさんと同じように思った人？

（A：半分だけ手を挙げ、周囲の意見をうかがう。）

D：【はじめ】は元気な明るい感じだったけど、【なか】は暗い静かな感じだった。

（A：私は… つぶやく）

A：【なか】は、高くなったり低くなったりしているから、ジャンプして並んでハレエ。

### 【資料2 授業記録より抜粋】

授業はそこで時間切れとなってしまったが、児童Aは手だて③の【体を使った表現の場の設定 子どもたちの意見の中からキーワードとなるものを見つけて意図的に問い返す】を行うことで、音の変化を根拠としてイメージを言葉に表すことができた。

### （3）これまでの学びに自信を深める児童A

#### ○ 第4～7時「小ぎつね」

第4時からは、これまでの学びを生かしてドイツ民謡『小ぎつね』を歌唱し、鍵盤パーモニカで演奏する内容となる。

導入として、『小ぎつね』を聴いて歌詞から感じたことを話し合った。児童Aは、1番の「くさのみ つぶして おけしょうしたり」の部分から【楽しそうに】と、2番の「きれいな もようのは なもなし」の部分から【さみしい】と、3番の「こくびをかしげて かんがえる」の部分から【困った】と感じ取り、歌唱で表現しようとしていた。第2時で発見した「音の長さや曲の速さによって様子が変わる」という秘密を生かして、1番は一つ一つの音を短く切ったり、少し速く歌ったりすると楽しい様子、1番はそれを実践して歌う姿が見られた。それに対して2、3番は、さみしそうな様子や、困った様子が伝わる歌詞である。ゆっくり歌ったり、一つ一つの音を伸ばしたりして歌唱した。

また、「くさのみつぶして」「おけしょう」「ぬう」「大きなしっぽは じゃまにはなるし」「こくびをかしげて」などの動きを表現する歌詞から、小ぎつねの様子を連想し、体を動かしながら歌う児童もいた。児童Aもそれを見ながら化粧をする動作を付けたり、首をかしげて腕を組み、困ったポーズをしたりしながら歌っていた。「くしだから、きっと体の毛をといていたんじゃないかな」「きっとこんなふうに狭い穴の中で大きいしっぽをだっこしていたんだよ」と、歌詞や教科書の挿絵などから感じたことを「その動き、いいね」「確かにそんなふうに聴こえる」と聴き合い、見合いながら鑑賞した。

鍵盤ハーモニカによる演奏では、1から3番の中から一つを選び、感じたことを演奏で表現することとした。児童Aは【楽しそうに】と感じた1番を選び、演奏から次のような特徴が見られた。

- ア 「コンコン」の部分を短く切って演奏することで、小ぎつねの楽しそうな様子を表現する。  
イ 「くさのみつぶして」や「もみじのかんざし」の部分で、頬に入れた空気をすべて出すようにタンギングをし、音を短く切って楽しそうな様子を表現する。

題材を終えて、貫く課題としていた【様子を思い浮かべられる曲には、どんな秘密が隠れているのかな】という問いを子どもたちに投げかけた。歌詞の意味に加え、リズム、速度、強弱、反復、旋律といった【音楽を形づくっている要素】について、子どもたちなりの言葉で語っていた。以下は、児童Aが発言した内容である。

分かりやすかったのは歌詞です。1番、2番、3番で比べたりしたら、違っているから見つけるのが楽しかったです。音の高さとか、長さとか、違っているところを見つけて考えることができました。気付いたことを歌ったり、踊ったり、(鍵盤ハーモニカで)吹いたりして楽しかったです。

#### 4 実践を終えて

##### (1) 実践の成果

###### 【仮説1】について

第1時では、級友の意見「歌詞『ブーン』の手をばたばたする」に、「確かに！」とうなずき、児童Aはみつばちの羽を真似して手をばたばたさせる姿が見られた。これは、「歌詞には動物の様子が隠されている」という秘密を見つけることができた場面である。

第2時では、級友の『かえりましょう』が『ゴーン』と鐘の音みたい」という意見を聴いて、児童Aは深くうなずき共感していた。その後、鐘のように裏声で、声を震わせて歌うことができた。これは、「音の長さや曲の速さによって様子が変わる」という秘密を見つけることができた場面である。

また第2時では、第1時の学びの足跡を見て、歌詞に注目すると曲のよさや面白さが理解できるということを振り返ったことにより、歌詞に注目することができた。

このように、手だて①の題材を貫く課題「様子を思い浮かべられる曲には、どんな秘密が隠れているのかな」を繰り返し伝え、手だて②「手だて①で見つけた秘密を学びの足跡に残していく」ことで、主体的に曲のよさや面白さとなる秘密を探ることができたと考えられる。

###### 【仮説2】について

第1時では、複数の児童からキーワードとなる「いそがしそう」という言葉が出たため、「いそがしそうな感じが伝わるようにするにはどう歌ったらいいかな」と問い返した。また、言葉での表現

が難しい様子だったため、「じゃあ、体で表現してみよう」と発問した。すると、児童Aは、みつばちが羽を素早く動かしながらせわしなく飛ぶ様子を、手をばたばたさせたりくるくる回りながら歌ったりして表現した。

第3時では、曲中の「ピーっ」というフルートの音に対して、児童Bが児童Aの表現の様子を「転びそうに、けんけんしていた」と発言したため、「ピーっという音のところ、児童Aさんは何していた？」と問い返した。すると、体で表現したいと考えた児童Aは、グループで殻を付けたひな鳥になりきり、音に合わせて走り回ったり、動きを止めたりした。

このように、手だて③「子どもたちの意見の中からキーワードとなるものを見つけて意図的に問い返す」ことを繰り返すことで、感じたことを体で表現することに意欲的になったと考えられる。したがって、この手だては有効であったと考えられる。

## (2) 今後の課題

### ア 音楽を形づくっている要素を授業者がつかむ

音色、リズム、旋律、強弱、反復など、音楽を形づくっている要素を、子どもたちは何となくつかんでいく。問い返しなどを用いて焦点化させていくためには、授業者が要素をきちんとつかんでいることが重要である。ここがしっかりしていると、鑑賞以外でも、曲から感じたことを伝え合う場を設定したり、集中して聴かせる手だてを講じたりして授業を実践することができる。

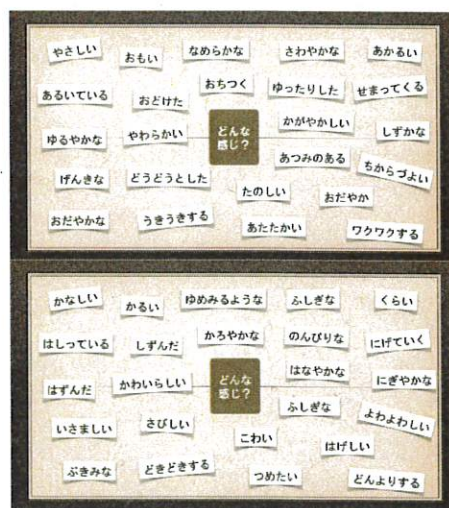
また、音や音楽を言葉にすることは、低学年の児童にとって難しい活動であり、【感じてはいるけれど言葉にできない】ということが本実践でも多くあった。「高い」「低い」「速い」「ゆっくり」など、音の特徴に関する言葉はキーワードとして掲示をしていたが、その音からどう感じたかを表現するための言葉の掲示はしていなかった。【資料3】は、教科領域等指導訪問の際に、指導員の先生に紹介していただいたものである。子どもたちの語彙力を増やすために、活用していきたい。

第3時では、曲を聴いた児童が「トムとジェリーみたい」と終始発言していた。その発言を「どうして？」と問い返し、全体に広げると、キーワードに縛られることなく、感じたことをより児童自身の言葉で表現できたのではないかと考える。

### イ 体育科の「表現運動」とは異なる

体を動かしながら聴くことを推奨していきたい。音楽に合わせて体を動かしている子のつぶやきや気付きを授業者が積極的に取り上げていくことである。「どうしてその動きになったの」「さっきの場面とどう変わったの」という問いによって、根拠を音楽の中から見いだせるようにしたい。また、全体に対しては「今の動きはどうだった」と広げ、感じ方の違いや新たな考え方の発見にもつなげたい。

「様子を思い浮かべられる曲には、どんな秘密が隠れているかな」と課題に挑戦した児童Aは、感じたこと、思いを伝える楽しさ、音楽を楽しむよさに気付くことができた。音楽科以外の授業でも、少しずつではあるが、級友と学び合う楽しさを実感し、自信をもって学びに向かっている。今回の実践は、音楽科だけでなくどの教科にも活用できる取組であり、さまざまな教科で工夫をし、児童Aのような変容を他の児童にももたらすようにしていきたい。



【資料3 HP「明日の音楽室より」】